

厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
分担研究報告書

「モニタリングとフィードバックの介入研究」
研究分担者：猪狩 英俊（千葉大学医学部附属病院・准教授）

研究要旨

研究要旨：一般診療所に対する外来抗菌薬処方に対する加入の標準モデルを作成するため、千葉県内の保険薬局にて抗菌薬処方のモニタリングを行い、抗菌薬使用量のフィードバックを行うことで抗菌薬適正使用を推進する前向き介入研究を行っている。

A. 研究目的

薬剤耐性（AMR）アクションプラン2016-2020において地域全体における各機関が連携してAMR対策を促進する「地域感染症対策ネットワーク」の概念が提示されている。抗菌薬処方の多くは外来処方であり、抗菌薬適正使用促進のためには地域感染症対策ネットワークを一般診療所（開業医）まで広げる必要がある。一般診療所を中心とした外来抗菌薬処方に対する介入は標準モデルが確立していない。

本研究では外来抗菌薬処方のモニタリングとフィードバックによる介入を標準モデルとするための整備を行う

B. 研究方法

千葉県全体の医療機関を調査対象として研究参加に同意した千葉県薬剤師会加入の保険薬局が応需する医療機関ごとのデータをレセプトコンピューターから抽出、毎月の全抗菌薬処方箋枚数と抗菌薬の種類別の処方箋枚数を千葉県医師会事務局で回収し集計する。

千葉県全体・市町村別・地区医師会別に集計された調査結果は1か月単位に一覧表にして、3か月ごとに千葉県医師会員ならびに薬剤師会員に機関誌等によりフィードバックする。これを3年間実施し、他地区・他市町村の実態等を見ることで、各医療機関がどのようにそれらを認識し、抗菌薬処方状況がどのように変化していくかを観察する（前向き研究）。またAMRアクションプランが示された当時の抗菌薬使用実態を検証するため2017年のデータも抽出する（後ろ向き研究）。

「保険薬局と連携した経口抗菌薬処方の実態把握とそれに基づく抗菌薬使用の省みの効果の検証」を積極的に行うことを希望する医療機関は、処方箋を応需している保険薬局に申し出て、当該医療機関のみの全抗菌薬処方箋枚数と抗菌薬系統別の処方箋枚数の集計結果を毎月当該保険薬局からフィードバックを受ける。それにより、セルフチェック効果の検討を行うべく、情報公開を承諾する医療機関があれば、抗菌薬処方状況の変化について、当該医療機関名を公表しない形で千葉県医師会員に対して省み効果の

情報を提供する。

C. 研究結果、D. 考察

モニタリングを実施している保険薬局が存在する市町村は24となった。（図1.）

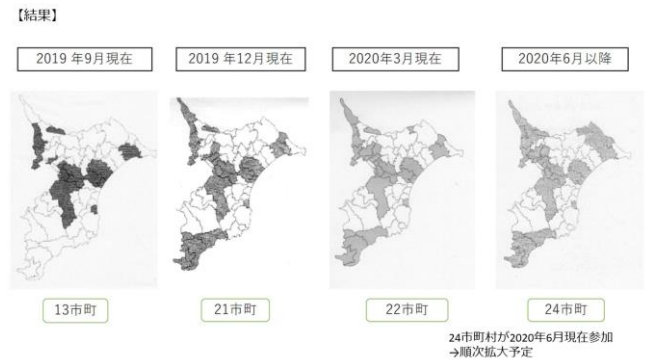


図1. 二次医療圏ごとのモニタリング実施保険薬局

2020年4～6月および7～9月の応需処方箋枚数はそれぞれ176,777枚、103,715枚であり、2019年の同時期（それぞれ315,179枚、297,160枚）と比較して減少した。これはCOVID-19により受診が減少したためと考えられる。その中での抗菌薬の処方箋は、2020年4～6月で8.7%、7～9月で10%と前年同時期（それぞれ12.8%、11.7%）と比較して割合と数そのものが減少している。（図2.）

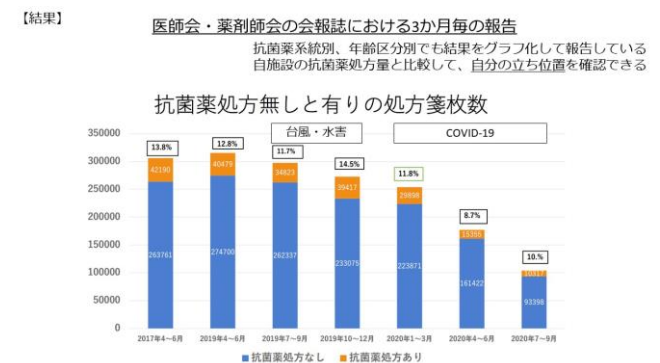


図2. 応需処方箋枚数

比較のために年齢区分毎のペニシリン系抗菌薬の処方割合の推移を示す（図3.）。AMRアクションプランが発表されてから小児領域ではペニシリン系の使用割合が増加している。また成人でも徐々にペニシリン系の使用割合が増加傾向である。逆に第3世代セフェム系の抗菌薬の処方割合は一時期上昇したもの

の、2020年の中頃までの解析では横ばいあるいは徐々に低下傾向を示している(図4.)。マクロライド系抗菌薬の処方割合は全年齢層で著しく減少している傾向であった(図5.)。キノロン系抗菌薬は65歳以上の高齢者において2020年夏頃より処方割合が増加しており、コロナ禍において安易にキノロン系の抗菌薬が処方されているのではないかと危惧されている(図6.)。

年齢区分毎のペニシリン系抗菌薬処方割合の推移

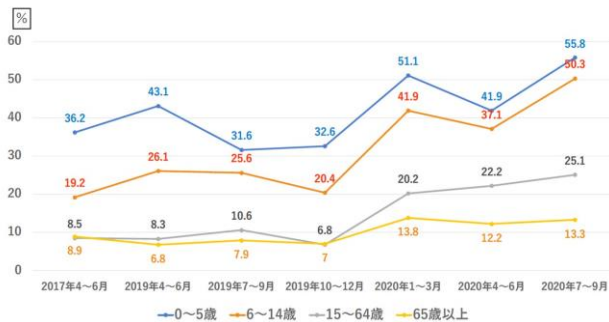


図3. 年齢区分毎のペニシリン系抗菌薬処方割合

年齢区分毎の第3世代セフェム系抗菌薬処方割合の推移

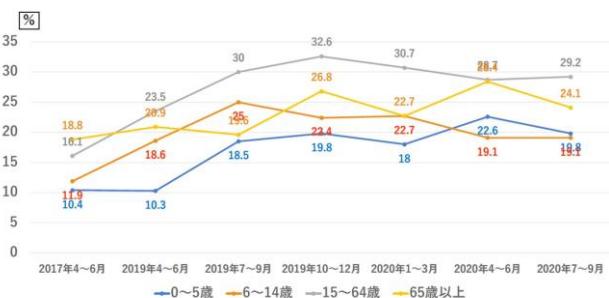


図4. 年齢区分毎の第3世代セフェム系抗菌薬処方割合

年齢区分毎のマクロライド系抗菌薬処方割合の推移

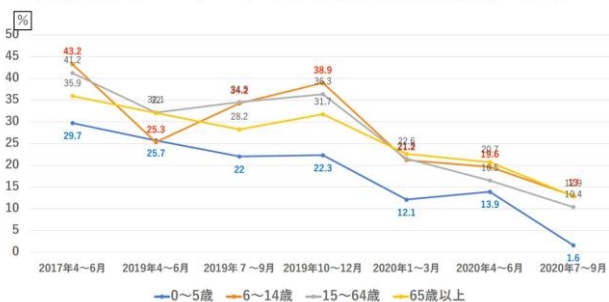


図5. 年齢区分毎のマクロライド系抗菌薬処方割合

年齢区分毎のキノロン系抗菌薬処方割合の推移

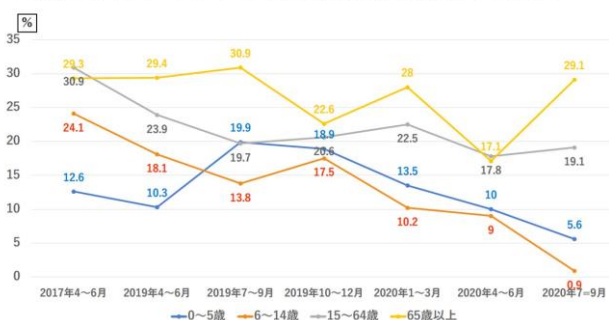


図6. 年齢区分毎のキノロン系抗菌薬処方割合

これらのデータを千葉県医師会報および薬剤師会報にて参加会員にフィードバックをしている。個別の診療所に対するフィードバックをする準備を進めている。2020年度の使用状況などを解析して、COVID-19によるオンライン診療など新たな診療形態による問題点などもリアルタイムに見出すことができおり、これらに関して薬剤師会員および医師会会員にWeb講演という方法で周知を行った。

E. 結論

外来抗菌薬の診療所に対するモニタリングとフィードバックを行った。県全体としての傾向を千葉県医師会雑誌および千葉県薬剤師会雑誌にて発表した。今後は個別の診療所に各保険薬局からフィードバックを行い、診療所単位でのモニタリングとフィードバックを実施する。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 猪狩英俊, 宇野弘展, 木村英晃, 西牟田敏之, 黒崎知道, 石和田稔彦, 谷口俊文. (2020). 「保険薬局と連携した経口抗菌薬使用実態把握に基づく適正使用の推進に関する研究」集計結果報告(第4報). 千葉県医師会雑誌, 72(9), 346- 348.
2. 猪狩英俊, 宇野弘展, 木村英晃, 西牟田敏之, 黒崎知道, 石和田稔彦, 谷口俊文. (2020). 「保険薬局と連携した経口抗菌薬使用実態把握に基づく適正使用の推進に関する研究」集計結果報告(第3報). 千葉県医師会雑誌, 72(6), 223- 225.
3. 猪狩英俊, 宇野弘展, 木村英晃, 西牟田敏之, 黒崎知道, 石和田稔彦, 谷口俊文. (2020). 「保険薬局と連携した経口抗菌薬使用実態把握に基づく適正使用の推進に関する研究」集計結果報告(第2報). 千葉県医師会雑誌, 72(4), 121- 123.
4. 猪狩英俊, 宇野弘展, 木村英晃, 西牟田敏之, 黒崎知道, 石和田稔彦, 谷口俊文. (2020). 「保険薬局と連携した経口抗菌薬使用実態把握に基づく適正使用の推進に関する研究」集計結果報告. 千葉県医師会雑誌, 72(1), 9- 12.
5. 猪狩英俊, 宇野弘展, 木村英晃, 西牟田敏之, 黒崎知道, 石和田稔彦, 谷口俊文. (2020). 「保険薬局と連携した経口抗菌薬使用実態把握に基づく適正使用の推進に関する研究」集計結果報告(第3報). 千葉県薬剤師会雑誌, 66(6), 272- 274.

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし